

答

(土木建築部長)八木駅舎の改築については、平成28年にJR西日本と覚書の締結を行った。現在は詳細設計をしており、本年度は電気工事などの一部を実施する。平成31年度からは仮駅舎の工事および支障物件の移転となる。新駅舎の工事期間は2年間で、供用開始は平成33年4月の予定である。併せて旧駅舎の撤去と東西の自由通路の建設、エレベーター4基の設置も予定している。

問

原子力災害が起きたとき、美山町を通って福井県から避難されてくると思うが、美山の人はどのように避難するのか。また、安定ヨウ素剤がきちんと配られるのか。市が避難のシミュレーションをもっと緻密にしておくべきではないか。

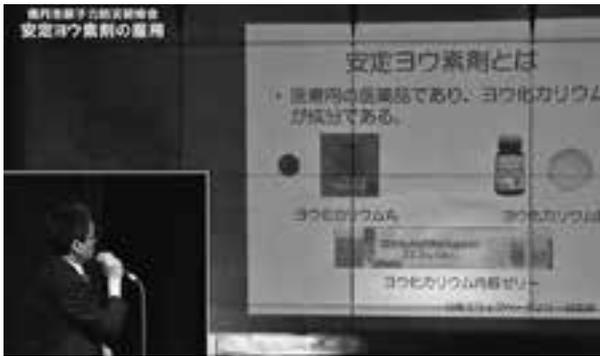
(日吉町生涯学習センター)

答

原子力防災に関する避難訓練は実施しており、一部の住民には広域避難の取り組みに参加いただいた。広域避難については、行動計画や避難のシミュレーション、訓練のスタイルはできているが、もしものとき、コントロールできないければ計画的な避難ができなくなる。単独の自治体

では広域的な避難計画も立てられないので、京都府に強く要望していく。

安定ヨウ素剤については、配布計画を京都府と相談しており、個人配布ではなく、分散備蓄することと許可をいただいた。具体的には集落単位や隣組単位を想定している。そうすることで飲むタイミングなどを専門家と協議してコントロールができる。個人配布すると分散備蓄方式を進めていきたい。



▲南丹市原子力防災研修会の様子(平成30年4月15日)

問

胡麻地域では、広野の拡幅工事や日吉平の道路改良、ICOCAの使用

について、何年も前から課題として要望しているが見通しがつかない。どうなっているのか。

(日吉町生涯学習センター)

答

ICOCAについては、国土交通省を通じて、JR西日本本社へ京丹波町と要望に行った。車載方式のICOCAシステムもあるようで、方法は別として利用できるようにしてほしいと要望している。働きかけ方も変えながら引き続き取り組みたい。

日吉平の道路については、整備が完了してからでなければ供用開始してはならないとの地元の皆さんのご意見があり、通行止めとなっている。地権者の方の体調が悪く直接お話しできていないが、新たな提案をし、ご理解いただいた上で早く供用開始できるようにしていきたい。私も直接お願いに行きたいと思っている。

(土木建築部長)広野の拡幅工事は、府道富田胡麻停車場線のことと思うが、地元協議会で十分協議いただき、地権者の方にもご尽力いただいで、境界立ち合いが全て終了したところである。今後は立ち合いに基づいた図面を作成し、境界確定をしていきたい。境界確

問

障がいや認知症などで判断力が低下した市民を支える成年後見制度に関して、平成28、29年度、市民後見人養成講座があった。登録された人材の活用方法について、市は未だに示していない。いつ示してもらえるのか。

また、支える市民、支えられる市民が活動できるよう、検討チームを作してほしい。(市役所本庁)

答

南丹市社会福祉協議会と南丹市が一体となって取り組みを進めようと一定の方向付けを行っているところである。

(市民福祉部長)成年後見制度の利用の促進に関する法律が平成28年4月に可決され、市町村においても基本的な計画策定などの取り組みに努めるよう規定された。市では、市民後見人養成講座を開催するなどの取り組みを進めているが、家庭裁判所から選任を受けて活動いただく状況にまでは至っていないため、現在具体的な活動内容について検討している。例えば、南丹市社会福祉協議会の法人後見事業の支援員として活動して